

高知大学 病院 ニュース

〔編集〕

高知大学病院ニュース

編集委員会

委員長 山本 哲也

〔発行人〕

高知大学医学部附属病院

病院長 杉浦 哲朗

相良賞（銀賞）が授与されました

『相良賞』とは、先端医療学推進センターの創設、基金の確保及び設立に多大な貢献をなされた相良祐輔前学長の功績を記念して創設された賞です。先端医療学コースを履修中に顕著な研究成果を挙げた学生を表彰する制度で、3年間を通じての研究成果を称える『金賞』と、各年度の研究成果を称える『銀賞』があります。



授与式にて(写真中央右:相良祐輔 名誉センター長)



授与された表彰状と盾

医学科4年 大友 和則

このたびは2年連続で栄える賞を受賞することができ、大変嬉しく思っております。

昨年度は一昨年度に引き続き「急性腎障害」を対象に研究を行いました。急性腎障害は何らかの原因により急速に腎機能が低下した状態を指し、一般に予後が悪いとされています。今回の研究では、どのような疾患に罹患した場合に急性腎障害を発症しやすいかについて、高知大学医学部附属病院の30年間のデータを網羅的に探索致しました。調査の結果、リスクの高い疾患には呼吸器系・循環器系の疾患および敗血症等の感染症に関連する疾患が多く見られました。また、近年、急性腎障害との関連性について世界的に注目されつつある「高尿酸血症」も急性腎障害の発症のリスクを高めるとの結果が得られました。本年度は昨年度に得られた様々なリスクの中から尿酸に焦点を当て、血清尿酸値と急性腎障害の発症との関連性を調査しております。

学部生でありながらこのような最先端の研究に携わることができているのも、奥原先生をはじめとする医学情報センターの先生方、内分泌代謝・腎臓内科学講座の寺田先生のお力添えがあってこそです。この場をお借りして深くお礼申し上げます。また同じ研究室に所属し、苦楽を共にしている石橋君にも感謝の意を示したいと思います。本年度も残り半分となりましたが、先生方のご期待に沿えるよう、より一層精進したいと考えております。

医学科4年 岡田 奈月

昨年度に設立されました、先端医療学コース受講者を対象とした相良賞。日本腎臓学会学術総会での発表に対する優秀演題賞に引き続き、このような素晴らしい賞をいただいたことを光栄に思います。ご教授いただきました先輩方、技官の皆様、実験の方向性を考え、様々にご指導くださいました寺田教授をはじめとする内分泌代謝・腎臓内科学講座の先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。

今回発表させていただきました研究は、近年増加傾向にある、人工透析患者さんのレスキューを最終目標としています。最近では、iPS細胞など分化多能性幹細胞を用いた研究が注目を集めていますが、我々の研究室が注目しているのはSix2という遺伝子です。このSix2ともう一つ、GDNFという2つの遺伝子が、腎臓機能の回復に影響している可能性があります。腎臓がダメージを受けた時、一部の細胞は死んでしまいますが、残った細胞がもう一度分裂する能力を獲得し、分裂後再び機能を回復することで死んでしまった分の細胞を補い、腎臓を機能正常状態まで回復できるのではないかと考えています。これに関与するのが前述した二つの遺伝子です。

人工透析は体力的な負担も大きく、患者さんのQOLに大きく関与します。最近の研究で、一度急性腎障害になった患者さんのうち、3割の方に腎臓機能の回復が見られることがわかりました。しかし、そのメカニズムは未だ解明されていません。私の研究を含め、当研究室で進めている研究がいつか実際の臨床に役立てる日がくることを願っています。

備蓄倉庫建設について

会計課

附 属病院は、高知県から広域的な災害拠点病院、広域搬送拠点臨時医療施設(SCU)に指定されており、今後予想される南海トラフ巨大地震のような大規模災害発生時にも継続して医療を提供することが求められています。

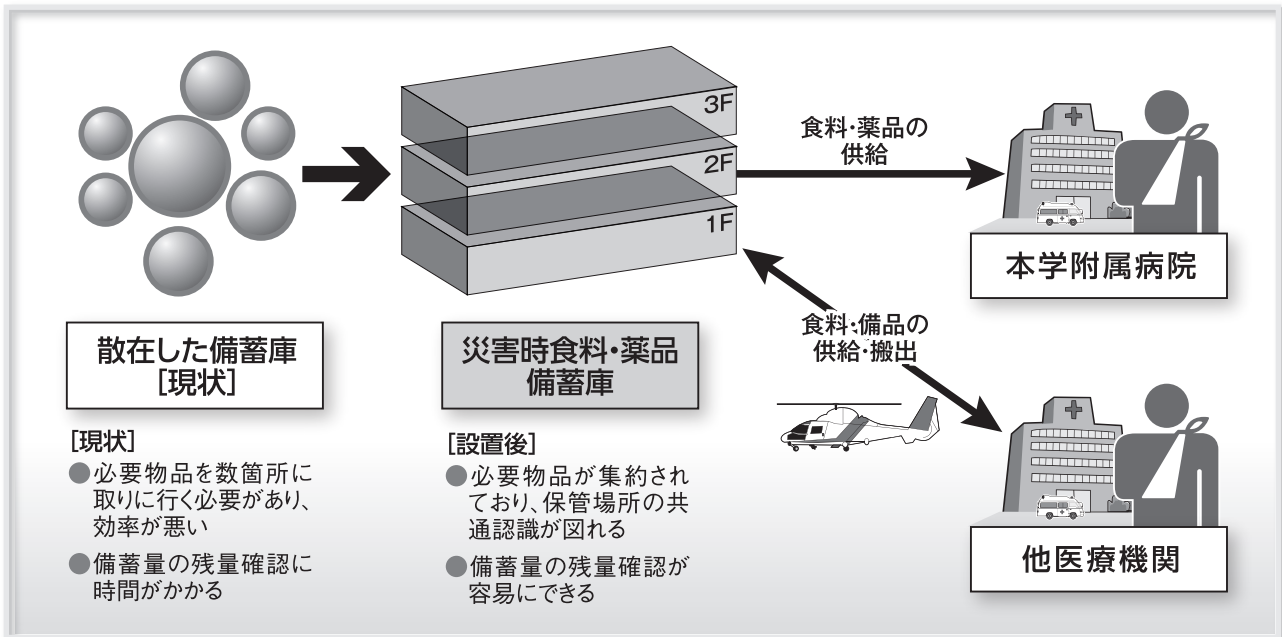
医 学部周辺の地盤は軟弱であるため、巨大地震発生時には陸路が寸断され、外部からの物資の供給が断たれる可能性があります。加えて、空路のみの補給では物資が大幅に不足する恐れがあります。

し かしながら、現状では災害等の備蓄品を敷地内の各所に散在する倉庫に分散して保管せざるを得ない状況のため、緊急時の物資集積がスムーズにできない懸念を抱えておりました。

こ の度、平成24年度補正予算(復興関連事業分)において国から予算措置がなされ、物流センター北側に備蓄倉庫を整備することになりました。工事期間については、8月に着工し平成26年3月末の完成予定です。これにより、非常食などの備蓄品・防災用品等を集中管理できることとなります。

備 蓄倉庫仕様の詳細については、まだお知らせできない段階にありませんが、イメージ図をご紹介しますいただきます。

(文責：会計課／小笠原)



第2回 高知大学医学部附属病院 災害医療研修会 (Disaster ABC) 開催

会計課

附属病院では、6月1日(土)に災害医療研修会(Disaster ABC)を看護学科棟で開催しました。この研修会は災害・救急医療学講座の主催により昨年度から開催しているもので、今年は2回目です。15名の外部講師を迎えたほか、高知大学DMAT等のインストラクター、受講者、見学者を含め総勢200名近くの参加がありました。

受講者は「本部・通信・トリアージ・治療・搬送」の各セッションの課題をこなし、1日のみではありましたが大

変中身の濃い研修会となりました。また、模擬患者は教員のほか医学科・看護学科の25名の学生も務め、学生教育の面でも好評でした。

このような大がかりな研修会の実施はなかなか困難とのことで、他病院から大勢の見学があり、訓練の公開によって大学病院としてのスキルアップだけでなく地域の災害医療への貢献ができたものと考えています。

本研修会開催にあたり、ご協力いただきました各方面の方々に紙面を借りてお礼申し上げます。



災害医療の基本についてのレクチャー



トリアージ実施中。
タグの記載も習熟が必要



模擬治療の様子



災害医療についての全体講義



模擬患者の教員・学生たち



無線交信の様子



被災地支援に関する 厚生労働大臣からの感謝状について

平成23年3月11日(金)の東日本大震災発生日に、
本学医学部附属病院はDMAT(災害派遣医療チーム)として
医師等5名を被災地域へ派遣し、その後も継続して支援を行いました。
このたびこの支援に対し、厚生労働大臣から感謝状の贈呈がありました。



贈呈された感謝状

本 院は東日本大震災による被害の大きさを鑑み、また宮城県からの要請を受けて平成23年3月19日から4月29日にかけて、医師・看護師・コメディカル・事務職員等3~5名からなる班を編成して、1班あたり5日間の出勤をし、合計10班、総勢220名にのぼる継続的な医療支援を行いました。具体的には、宮城県石巻市鹿妻(かずま)・渡波(わたのは)地区において、石巻赤十字病院を中心とする石巻圏合同救護チームの一員として活動しました。

この他、当初の医療チームの派遣以外にも、医学部及び医学部附属病院が一丸となって次のような様々な支援を行っています。

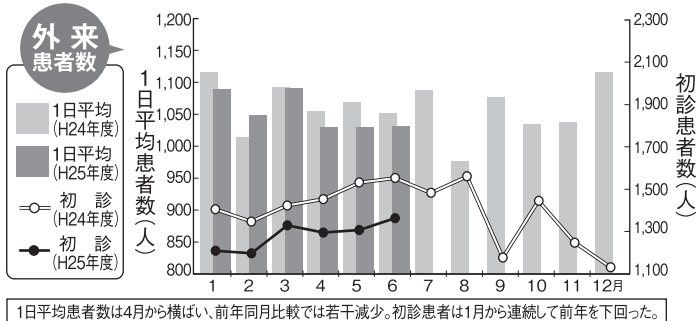


DMATのミーティング

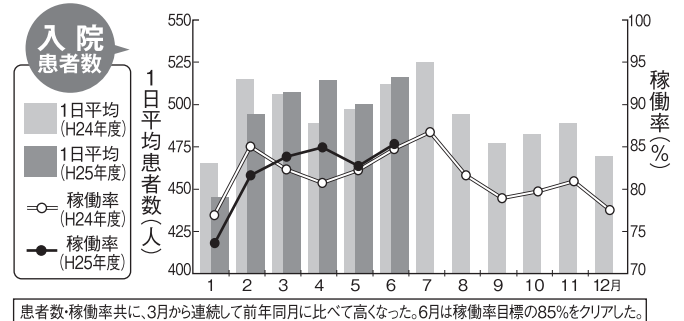
- ◆宮城県及び岩手県において、精神科医師を中心とする心のケアチームが、被災した方々の不安感、PTSD(心的外傷後ストレス障害)など、時間経過とともに変化する一人ひとりの心情にそったケアを行いました。【精神科及び看護部】
- ◆福島県住民の一時帰宅に伴う放射線被ばくのスクリーニング検査を実施することを目的として、継続的に放射線技師を派遣しました。【放射線部】
- ◆文部科学省からの要請を受け、東京電力福島第一原子力発電所の作業員に対し、医療及び健康管理に従事する看護師を派遣しました。【看護部】
- ◆全国医学部長病院長会議被災地支援委員会からの要請を受け、岩手県立高田病院及び宮城県立志津川病院へ医師を派遣しました。【各診療科】
- ◆自治医科大学医学部同窓会の派遣要請を受け、医師を派遣しました。【家庭医療学講座】
- ◆現地の県警察本部からの派遣要請を受け、医師が現地で死体検案支援を行いました。【法医学講座】

これらの経験を生かして、今後発生することが予測されている南海トラフ巨大地震への備えを整えていくことが求められています。

診療状況



1日平均患者数は4月から横ばい、前年同月比較では若干減少。初診患者は1月から連続して前年を下回った。



患者数・稼働率共に、3月から連続して前年同月に比べて高くなった。6月は稼働率目標の85%をクリアした。

編集後記

今年度より、病院ニュース編集委員会副委員長を拝命しました。宜しくお願いいたします。昨年度より総務担当の副院長も務めさせて頂いて、今後の新病棟の整備とそれに続く医学部再開発を進める上で、病床稼働率や収益の問題は、大変重要な課題と考えております。今年度は多くの診療科長の先生も新しくご着任になり、新規の診療体制や治療法などの紹介と附属病院の更なる活性化にこの病院ニュースがお役に立てるようがんばりたい

と考えております。ご指導、ご鞭撻宜しくお願いいたします。現在まだ7月の中旬ですが、この夏は例年にないほどの猛暑で、脱水症など体調を崩される患者さんも多くいらっしゃいます。職員の皆様もこまめに水分をとり健康に留意して頂きたいと思っております。職員の皆様ご自身が健康管理を十分にすることが、病院機能、日々の診療を含めた患者さんへの適切な対応を向上する上でなんといっても重要と考えます。皆様をどうぞ、ご自愛ください。(文責 寺田典生)